

第 3 学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 よりよい社会をめざす
- 2 内容項目 C 1 2 社会参画・公共の精神
(関連項目) (A 4 希望と勇気 B 6 思いやり C 1 1 公正, 公平 C 1 3 勤労 C 1 4 家族愛)
- 3 教材名 『鳩が飛び立つ日 -石井筆子-』 (「私たちの道徳」文部科学省)

4 ねらい(視点)

「社会参画の意識」とは、関連項目である「勤労」と相まって、社会の一員として積極的に関わり、考え、行動しようとするものである。既存の社会に従属的に参加し、迷惑をかけない、秩序を守るといった意識だけではなく、自らよりよい社会の構成員として役割を自覚し、果たしていこうとすることである。

本学級の生徒は学級活動や学校行事などを通じ、協力したり互いを思いやったりする心情が培われている。特に 3 年生になってから、孤立しがちな生徒も含め自発的に全員に声をかけ、仲間として認め合い励ましあい、学級・学年全体の取り組みに対して主体的に参加するようになってきた。

しかし、学校全体や、地域、国などより大きな社会に対しては、どうしても従属的・他律的にとらえがちで、自らの将来のための進路選択においても、自分ごととして捉えつつも、どこか受け身的な考え方をする生徒が多い。義務教育 9 年間の終わりにあたり、多様かつ急激に変化する社会において、もっと主体的に関わり積極的な生き方を模索できる生徒を育成したい。

本教材は明治維新のころから昭和の初めにかけて、日本の近代女子教育の第一人者であり、日本初の知的障がい者教育を行った「滝乃川学園」創始者のひとりである石井筆子の半生を綴った作品である。3 人の娘のうち 1 人を病弱で幼くして亡くし、夫にも先立たれた。娘 2 人は知的障がいがあり、その娘を預けていた経緯から学園を支援し、創設者の石井亮一と再婚するが、残った 2 人の娘も病死、さらに学園の火災で 6 人の園児を失う。すべてを失った筆子は学園の閉鎖を一度は決意するが、周囲の励ましもあり、社会の中における自らの役割を自覚し、学園を再開する。

筆子の姿から主体的に社会に関わり、役割を考えて積極的に生きるよさを感じとる道徳的心情、および積極的な生き方を見つけようとする道徳的实践意欲を育めるよう、この主題を設定した。

5 教材の特色と扱いの工夫

本教材は道徳的に問題を抱え大きく変化するような登場人物がおらず、中心発問から価値の本質に迫る思考をさせることが比較的難しい。また、筆子の家族や園児が、教材の中で 10 人も亡くなるため、現代の中学生にとっては非現実的と思えるほど悲惨な境遇であり、共感しがたい部分もある。また、話がシリアスすぎて明るい雰囲気の中で授業を進めるのが困難な面もある。

しかし、教科化に向け、教科書にはこういった「歴史・偉人もの」の教材がある程度掲載されることが予想される。こういった教材では中心発問を入口として価値そのものに向き合い、考えるための問い返しを工夫することにより、生徒に深く考えさせるきっかけを作れるのではないかと考えた。

また、教材が長く判読に要する時間がかかり、展開にかかる時間が物理的に短くなるので、生徒一人一人の意見や考えを表明する機会を与え、全員参加の授業にするため、ホワイトボードを活用した。

6 本時の展開

時	主な学習内容・活動	評価・留意点
11	<p>資料を読む ※約11分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代背景と石井筆子の半生を押さえる ◆時代背景について <ul style="list-style-type: none"> ・女子教育、障がい児教育の実情 ・富国強兵の時代 ・華族制度など、法の下での平等が実現されていなかった ◆内容について <ul style="list-style-type: none"> ・家族の相次ぐ病死と、火災 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が判読する。 ・細かい内容については、道徳的な価値を理解し考えるためには必ずしも必要ではないので、深入りして時間を取られないよう留意する。
16	<p>◎筆子は、一度閉鎖を決意した学園を、なぜ続けようと思ったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇励まされたから ◇あきらめたくないから ◇残された子どもの居場所がなくなるから 	<p>※中心発問</p>
20	<p>○励まされたからといって、そこまでできるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分のためだと諦めるけど、人のためだと頑張れる。 ◇ただ励まされたから、だけではないと思う。 <p>○自分の夢の実現のために、あきらめなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇そういう面もある ◇それだけではない 	<ul style="list-style-type: none"> ・価値に迫るため、対話の流れで問い返す。
30	<p>○娘の教育が、障がい児教育の道に進むきっかけとなったはず。家族を失い、園児を失い、なぜここまでできるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分がやらなければ、だれもやらないから。 ◇残った園児の居場所がなくなってしまうから。 ◇障がい児や子どもを愛していた。 ◇一人で頑張っているわけではないと気づいたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに一人ずつ書かせ、掲示させる。近い考えと感じたボードの近くに貼らせる。 ・生徒のことばを生かして対話から問い返す。
46	<p>・「私たちの道徳」P. 153『一中学生に、声をかけてください!』を見て、たとえ希望を失う状況でも積極的な生き方をすることについてより身近に考える。(偉人→中学生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がなければ省略
50	<p>○帰宅後に資料を再読して、感想を記入し、自己評価してください。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>～授業后感想の抜粋～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆子さんが続けようと思った理由は、今まで努力してきたし、亡くなった子供や今自分が教えている、周りにいる子供を裏切りたくなかったのかなと思いました。少し難しい話でしたが、他の人の意見も聞いて、考えが深まりました。 ・これから日本を築いていく子どもたちが教育を受けられないのは、悲しいことだと思ったから学園を閉鎖するのをやめたんだと思う。今の環境で勉強できていることを大切にしたいと思う。 ・子どもたちにしてあげられなかった、やり残したことをやってあげたいという強い気持ちが筆子さんを動かしたんだと思います。「強い人は弱い人を助けなければなりません」という言葉が印象に残りました。 ・筆子さんはたくさんの悲劇があったけど、最後までやり通していてすごかつこよかったです。前向きに生きている姿がとても印象的でした。 </div>	